

From the

World Conference



International Stroke Conference (ISC) 2019

2019年2月6～8日 米国・ハワイ

桑城 貴弘 国立病院機構九州医療センター脳血管・神経内科医長

はじめに

国際脳卒中会議(International Stroke Conference : ISC)2019が、2月6～8日に米国ハワイで開催されました。ISCは、米国心臓協会(American Heart Association : AHA)および米国脳卒中協会(American Stroke Association : ASA)が主催する世界最大の脳卒中国際会議です。毎年約70の国から5,000名近い医療関係者が集まり、脳卒中に関する最新の研究について発表が行われます。本年はハワイでの開催ということもありアジア圏からの参加者も多く、さまざまな領域について熱い議論が行われました。そのなかで、実臨床に関連した大規模研究についてご紹介します。

ISC2019のハイライト

1 CSPS.com試験

豊田一則先生(国立循環器病研究センター)が、わが国で行われた研究よりシロスタゾールによる併用療法が脳梗塞の再発抑制に効果的であったことをPlenary Sessionで報告しました。

対象は非心原性脳塞栓症発症から8～180日で、アスピリンまたはクロピドグレル単剤で二次予防を行った脳梗塞再発高リスク症例(頭蓋内主幹動脈や頭蓋外動脈に50%以上の狭窄、2つ以上の危険因子)です。アスピリン単剤もしくはクロピドグレル単剤群と、それらにシロスタゾールを加えた併用群について追跡調査を行いました。結果として、観察期間中(中央値19ヵ月)に主要評価項目である脳梗塞再発が発生した頻度は単剤群で4.5%、シロスタゾール併用群で2.2%であり、併

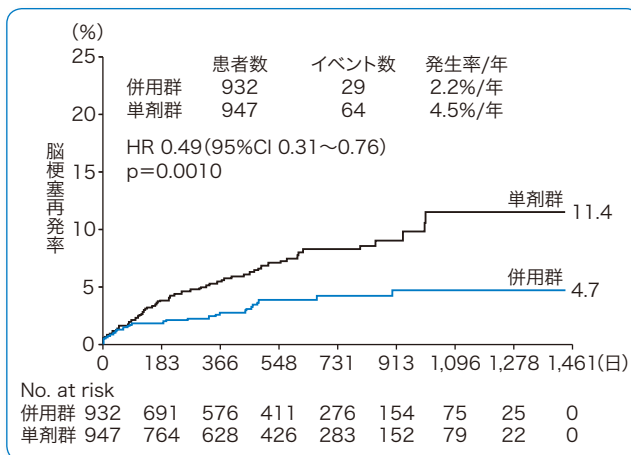
用群で有意に低値でした(ハザード比(HR)0.49, 95% CI 0.31～0.76, $p=0.0010$, 図1)。また、層別解析されたいずれのサブグループにおいてもシロスタゾール併用群での脳梗塞再発率は同様に減少傾向を示しました。さらに、脳出血発生率は単剤群で0.5%、併用群で0.4%であり、経過中の脳出血発症リスクに有意差を認めませんでした(HR 0.77, 95% CI 0.24～2.42)。

有効性もさることながら、長期投与での脳出血発生率にも影響を及ぼさなかった結果は今後の抗血小板薬2剤併用療法(dual antiplatelet therapy : DAPT)に一考を投じる結果でありました。

2 CREST試験/ACT I試験のメタ解析

無症候性頸動脈狭窄症例に対して頸動脈ステント留

図1 単剤群, シロスタゾール併用群での脳梗塞再発率およびKaplan-Meier生存曲線



(提供 : 豊田一則 先生)

SAMPLE